

飛騨市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果

- 1 点検及び評価を行った期日 令和6年8月6日（火）、令和6年9月2日（月）
- 2 点検及び評価の会議を行った場所 飛騨市図書館2階 情報発信室
- 3 点検及び評価を行った会議 令和6年10月31日（木） 令和6年第8回教育委員会定例会
- 4 点検評価委員（7名） 社会教育委員の会委員長、河合小学校学校運営協議会委員、宮川小学校学校運営協議会委員
飛騨市PTA連合会会長（神岡小）、同子育て代表（神岡小）、飛騨市文化協会会長、飛騨市スポーツ協会会長
- 5 点検及び評価を行った会議に出席した者
（飛騨市教育委員会）
教育長 下出 尚弘、委員 向川原 眞郷、委員 平澤 千人、委員 牛丸 洋子、委員 谷口 陽信

（説明のため出席した飛騨市教育委員会事務局職員）
教育委員会事務局長 大庭 久幸、教育総務課長 堀之上 亮一、学校教育課長 平澤 啓介
生涯学習課長 古田 善尚、文化振興課長 尾賀 寿治、スポーツ振興課長 西田 博和
教育総務課長補佐 加藤 憲子
- 6 点検及び評価の対象事務 飛騨市教育委員会の権限に属する令和5年度の事務
- 7 点検及び評価の方法
飛騨市教育委員会事務点検評価実施要領（平成21年飛騨市教育委員会訓令第1号）第3条の規定により、飛騨市教育委員会事務局各課が第1次評価した「飛騨市教育委員会事務点検評価資料」により、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第2項の規定に基づく飛騨市教育委員会事務点検評価委員会を開催し、教育に関し学識経験を有する者からの意見聴取を行った後、令和6年10月31日開催の令和6年第8回教育委員会定例会において、令和5年度の飛騨市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行った。

8 飛騨市教育委員会が飛騨市教育委員会事務点検評価委員会に意見聴取を行った期日及び場所

第1回 期日 令和6年8月6日（火）

場所 飛騨市図書館2階 情報発信室

第2回 期日 令和6年9月2日（月）

場所 飛騨市図書館2階 情報発信室

9 飛騨市教育委員会事務点検評価委員会の飛騨市教育委員会に対する意見

飛騨市教育委員会の権限の属する令和5年度事務の点検及び評価については、飛騨市教育委員会事務局各課が行った第1次評価のとおりであることを認める。

10 点検及び評価の結果

別紙「令和6年 飛騨市教育委員会事務点検評価結果」のとおり

令和6年 飛騨市教育委員会事務点検評価結果

令和5年度 事務事業点検評価シート

令和5年度 決算に係る主要施策の成果に関する

説明書主要施策成果説明書（教育委員会関係分）

飛騨市教育委員会

令和6年度 事務事業点検評価シート(5年度事業) 【事務点検評価実施要領第3条】

担 当 課	事業番号	事 務 事 業 名	頁	評 価
教育総務課	①教育総務係	1 教育委員会運営事業	1	A
		2 スクールバス運営・更新事業	2	A
		3 飛騨市育英基金貸付事業	2	B
		4 育英基金貸付地元就職補助事業	2	A
		5 学校施設整備事業（空調設備整備事業）	3	A
	②学校給食係	6 安全・安心な学校給食の提供	4	B
		7 地産品や地元有機農産物を使ったふるさと食育の推進	5	A
		8 給食施設の設備更新	6	A
学校教育課	①学務係・管理指導係	9 飛騨市学園構想の推進	7	A
		10 I C Tを効果的に活用した授業づくりの推進	9	A
		11 生きにくさ、学びにくさのある児童生徒への支援の強化	10	A
		12 地域部活動化等による持続可能な部活動環境の整備	11	B
生涯学習課	①生涯学習係	13 社会教育推進事業	12	A
		14 青少年育成推進事業	13	A
		15 家庭教育学級等開催事業	14	A
		16 地域学校協働活動事業	15	A
		17 公民館講座等開催事業	16	B
		18 公民館管理運営事業	17	A
文化振興課	①文化係	19 図書館機能の充実事業	18	A
		20 飛騨市美術館企画展及び関連セミナー・ワークショップ事業	19	A
		21 地域歴史資源活用事業	22	A
		22 文化芸術振興事業	25	A
		23 文化交流センター管理・運営事業	26	A
スポーツ振興課	①スポーツ振興係	24 スポーツ推進事業	27	A
		25 体育施設管理運営事業	31	A
		26 飛騨市屋内運動場整備事業	32	C
		27 公共施設予約管理システム導入事業	33	A
		28 スキー振興事業	33	A
		29 スケボー&BMXエリア設置事業	34	C
		30 ねんりんピック岐阜2025大会開催事業	35	A
※ 教育総務課①- 1 は、教育委員会の活動に関する事務、それ以外は教育委員会が管理・執行する事務である。				

(注) 各欄下段カッコ内は「うち実質一般財源所要額」を示す。 ※以下同様

教育委員会事務局

1 教育総務課

① 教育総務係

総括事項

飛騨市の教育行政を進めるため、定期的に教育委員会を開催し、教育行政における重要事項や基本方針の決定を行った。教育委員や市内小中学校と連携を図りながら、各学校施設の破損箇所や危険箇所の修繕や学校敷地内の樹木の剪定・伐採など施設の保全に努めるとともに、天候不順や行事などによる臨時の路線や時間の変更等に対応した安定的なスクールバスの運行に努め、安心して学校活動が送ることが出来るように学校運用及び設備保守の両面にわたって教育環境の充実に取り組んだ。学校施設については、特別教室等への空調設備設置工事を各学校からの要望に応じて優先順位を決め、令和5年度から施工を行いより一層学びやすい施設整備に繋げた。

- 1 教育委員会運営事業
- 2 スクールバス運営事業
- 3 飛騨市育英基金貸付事業
- 4 育英基金貸付生地元就職補助事業
- 5 学校施設整備事業（空調設備設置工事）

施策の概要

1 教育委員会運営事業（決算額 1,263千円） 事業番号1 事務局1次評価 A

教育委員会では教育行政の質の向上を目的に、学校経営をはじめとする様々な教育に関する案件について議論を重ねた。また、事務点検評価委員会では、教育委員会の事務事業の内容について点検・評価をすることで、その結果を令和6年度への施策に繋げる取り組みとなった。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
教育委員会運営事業	千円 1,315 (1,315)	千円 1,263 (1,263)	千円 52 (52)	教育委員会の開催 定例会9回（議案28件、承認16件、報告6 合計50件） 臨時会1回（議案1件） 教育委員会協議会の開催 9回 事務点検評価委員会の開催 2回（8月 審議及び意見聴取、ホームページ掲載） その他（学校訪問、管内視察等）

(評価と課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額:1,309千円】

教育委員会定例会は年9回、臨時会1回が開催され、教育行政について、各委員による活発な議論が行われた。10月には市内8校について小中学校の授業を視察する等、教育の現場に出向き、各校の教育状況を実感していただいた。11月には可児市において県市町村教育委員会連合会研究総会が開催され、当市の教育委員が参加した。管内視察として2月に飛騨みやがわ考古民俗館の無人開館の状況を視察した。

2 スクールバス運営事業(決算額 84,541千円) 事業番号2 事務局1次評価 A

スクールバス運営事業は、新型コロナウイルス感染症対策として行っていた乗車人数が多い路線(古川太江線・信包線、神岡袖川線)での複数台数運行を取りやめ、コロナ前の運行に戻した。また、通常の小中学生の登下校だけでなく、学校行事や部活動による目的外使用の運行を行うと共に、天候等による通行規制についても対応した。安心安全なスクールバスとするため、老朽化の進む車両の修繕を行った。

また、スクールバス更新計画を改めて策定し、この計画を基にしながら各車両の状況に応じて長寿命化を図るなど柔軟な対応を目指す方針を固めた。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
スクールバス運営事業	千円 86,158 (86,158)	千円 84,541 (84,541)	千円 1,617 (1,617)	スクールバス修繕料 2,552千円 スクールバス運行委託 81,570千円

(評価と課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額:132,629千円】

現在18台あるスクールバス車両(ワゴン車含む)について更新計画を策定し、老朽化の進む大型バスの更新を令和6年度に1台更新し、今後も更新計画に基づいて各車両の状況を精査しながら更新していく予定。老朽化により修繕料も増加してくる中、長寿命化を図りつつ安心安全なスクールバス運行に努めていく。

3 飛騨市育英基金貸付事業 事業番号3 事務局1次評価 B

令和6年3月末時点での貸付総額は200,748千円(183件)となった。前年度に引続き償還金が貸付金を上回っているが、償還免除が13件あったため、年度末基金残高は減少している。

飛騨市育英基金総額 440,611千円(貸付額200,748千円・現金239,863千円) ※R5年3月末基金総額 443,506千円

令和5年度貸付額 15,480千円(27件うち新規6件)

令和5年度償還額 26,180千円(130件)※償還免除決定13名のうち、半額免除10名分含む

令和5年度において、過去に育英基金を活用された当市出身の方から育英基金に100万円の寄付をいただいた。

4 育英基金貸付生地元就職補助事業(決算額 1,051千円) 事業番号4 事務局1次評価 A

市内事業所等の雇用の確保と定住促進を図るため、従前の要綱に基づいて、平成26年度までに育英基金を貸し付けた者のうち、現在償還中の飛騨市在住者に、「地元就職補助金」として、償還金の一部補助を実施した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
育英基金貸付生 地元就職補助金	1,721 ^{千円} (0)	1,051 ^{千円} (0)	670 ^{千円} (0)	補助対象者 9名

(評価と課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額: 1,695千円】

当制度は、地元就職による雇用の確保と若者の定住促進を目的として平成18年度に創設されたが、その方向性に鑑み平成27年度からは「就職奨励金交付事業」として新たに制度化されたため、育英基金からは分離された。ただし、平成26年度までの貸付生は当該制度の対象者であるため、当該貸付生の償還が終了するまで予算の確保が必要である。

5 学校施設整備事業（空調設備整備事業）（決算額 92,159千円） 事業番号5 事務局1次評価 A

未整備となっている特別教室への空調設備の設置工事について、令和4年度予算からの繰越事業として令和5年の7月から稼働できるように施工を行った。また、令和6年度から7年度にかけて引き続き空調設備の施工を行うために、空調が必要な教室の状況や最適な空調設備を設置するための調査設計業務を委託し、令和5年度の補正予算で発注し、令和6年度に向けて繰越事業として施工する。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
小学校空調設備整備事業 (第1期)	R4繰越 ^{千円} 55,500 (47,165)	51,294 ^{千円} (43,242)	4,206 ^{千円} (3,923)	古小: ひまわり1組、2組、少人数教室、西小: 理科室、音楽室、 河合小: 5・6副教室、えがお、図書館、宮川小: ランチルーム、音楽室、 神岡小: あさがお、図書館
中学校空調設備整備事業 (第1期)	R4繰越 45,200 (41,213)	40,865 (36,948)	4,335 (4,335)	古中: 第2理科室、音楽室、神岡中: 第2理科室、音楽室、 山之村中: ランチルーム、ラーニングルーム
小学校空調設備整備事業 (第2期)	88,377 (76,362)	6,536 (6,536)	200 (200)	調査測量設計委託業務(小学校R6以降施工予定分) 工事費はR6に繰越
中学校空調設備整備事業 (第2期)	37,761 (32,619)	3,034 (3,034)	0 (0)	調査測量設計委託業務(中学校R6以降施工予定分) 工事費はR6に繰越

(評価と課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額(令和5年度からの繰越額): 小学校分81,641千円 中学校分34,727千円】

令和5年度は令和4年度の繰越事業(国庫補助対象事業)として7月から稼働できるように施工が完了し、令和6年度以降の施工についての調査測量設計業務を行った。同様に令和5年度からの繰越事業として令和6年度の7月から稼働できるように施工を実施する。

② 学校給食係

総括事項

健やかな教育環境を整える中で学校給食の役割は重要であるが、世界情勢の影響から物価、食材が高騰する中、令和５年度の当初予算及び９月補正予算にて一般会計から給食費特別会計へ食材高騰分を補填し、給食費を上げることなく給食の量や栄養価の保持に努めた。しかしながら、物価高騰の状況は収まる気配がなく、給食費の状況説明と給食費改定案について保護者からの意見を聴取した結果、反対意見はなく、逆に給食の質の向上を求める意見が多かったため令和６年４月から給食費の改定を行うこととした。

また、給食費の徴収事務について各学校の事務職員に実施いただいている中で、令和６年度から市で徴収するための給食費徴収システム導入を行い学校事務職員の業務効率化への対応を行った。その他、ふるさと納税を財源として食材の地産地消を推進し、地元産の食材を使用したデザートを提供や有機農産物を供給するなど、安全安心な、かつ楽しさのある学校給食の安定的な提供に取り組んだ。

- １ 安全・安心な学校給食の提供
- ２ 地産品や地元有機農産物を使ったふるさと食育の推進
- ３ 給食施設の維持及び設備更新

施策の概要

１ 安心・安全な学校給食の提供（古川国府給食センター経費：124,690千円、給食センター経費：27,053千円、給食費特別会計：33,818千円）

事業番号 6 事務局 1 次評価 B

一般会計では、古川国府給食センター負担金のほか、神岡給食センター、河合給食センター、山之村給食調理場に係る賄材料費以外の経費を経理している。

給食費特別会計では、古川町以外の市内小中学校、市立保育園給食の一部に係る賄材料費を経理している。

世界情勢の影響による食材高騰・燃料費高騰を受け、古川国府給食センターへの負担金及び給食費特別会計への繰出金による対応を実施し、給食費の値上げを行わずに必要な給食の量や栄養価の維持に努め、燃料費についても施設維持のために補正予算にて対応した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
	千円	千円	千円	
古川国府給食センター負担金	123,128 (123,128)	120,045 (120,045)	3,083 (3,083)	古川国府給食センター飛騨市実施分 ・古川中学校 給食日数 195日 延べ食数 79,317食 ・古川小学校 " 199日 " 89,439食 ・古川西小学校 " 198日 " 54,190食

物価高騰に伴う給食費特別会計繰出金及び負担金	千円 6,793 (6,793)	千円 6,793 (6,793)	千円 0 (0)	食材高騰対策（河合給食センター、神岡給食センター分） 1,992千円 〃（古川国府給食センター分） 4,645千円 天候の影響などにより休校となった際の食材の経費負担分 156千円 6/2 大雨警報により休校
給食費特別会計	千円 35,450 (0)	千円 33,818 (△594)	千円 1,632 (△594)	神岡給食センター ・神岡小学校給食日数 199日 延べ食数 57,182食 ・神岡中学校 〃 199日 〃 30,320食 ・旭保育園 〃 199日 〃 11,106食 河合給食センター ・河合小学校給食日数 191日 〃 7,519食 ・宮川小学校 〃 191日 〃 2,712食 山之村給食調理場 ・山之村小学校給食日数 193日 〃 } 5,735食 ・山之村中学校 〃 192日 〃

（評価と課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額 古川国府給食センター経費：129,390千円、給食センター経費：31,697千円、給食費特別会計：37,000千円】

食材が高騰する中、成長期の児童・生徒に健康面に配慮した必要な栄養価や脂肪・塩分の過剰摂取を控えるため、メニューの工夫や調理方法の改善等を行うとともに、アレルギー食への対応など、安全・安心な学校給食の提供を行った。令和6年度からは給食費の改定を行うが、物価高騰の流れが収まらない状況が見受けられるため、今後も栄養価等が確保しやすく余裕を持った献立が可能となる。また、子どもたちに食への関心を持ってもらうため、引き続き栄養教諭等による食育授業を実施していく。

安定した学校給食を提供するために、会計年度任用職員のスキルアップを行っている。これにより神岡給食センターの正規職員が山之村給食調理場や河合給食センターへのサポートに入っても神岡給食センターも機能できるようになっている。調理員が安心して休暇を取ることができる体制が整ってきている。今後は古川国府給食センターとの連携や様々な運営の方法について幅広く検討を進めていく。

2 地産品や地元有機農産物を使ったふるさと食育の推進（決算額 9,825千円） 事業番号7 事務局1次評価 A

ふるさと納税の活用による「地産品を使ったふるさと食育の推進」により、デザート等に飛騨市産加工品を月に2回程度提供する「ありがとう給食」や、地域食材を積極的に取り入れた給食を提供する「ふるさと学校給食」により、地産品に誇りを感じてもらうとともに、学校に来る楽しみの一助になるよう学校給食メニューの向上を図った。

また、市内全小中学校にて飛騨市産の食材を使った給食を提供する「ふるさと給食の日」を設けており、飛騨市農林部食のまちづくり推進課と連携して市内小中学校の内の1校で農業生産者の方からお仕事の魅力や食材の美味しさなどを語ってもらう食育授業を実施した。令和5年度はオーガニック給食にも取り組

むこととしており、飛騨牛、飛騨ほうれん草のほか、農薬・化学肥料不使用米を提供するとともに、河合小学校ではお米生産農家の方から飛騨地方の田園風景の美しさや田んぼの役割、田んぼを残していくことの大切さなどを語っていただいた。

その他のオーガニック給食の取り組みとして、12月にも有機米を給食に提供したほか、生産者の方と調整し可能な範囲で有機農産物の給食提供を行った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
地産品を使ったふるさと食育の推進事業	千円 10,000 (0)	千円 9,825 (0)	千円 175 (0)	ありがとう給食（デザート提供） 延べ 94回 5,519千円 ふるさと学校給食（地元食材提供） 延べ116回 4,306千円 オーガニック給食（有機トマト・ミニトマト、アロエトマト）延べ7回 "（有機米 12/5実施） 11/24「ふるさと給食の日」農薬不使用米、飛騨牛、ほうれんそう他） 食育授業 河合小学校 田んぼの役割とお米作りの話

（評価と課題及びその対応策）【令和5年度予算計上額:10,000千円】

食材が高騰する中、当事業により給食費に影響なく地域の農産物の積極的な活用や地域のデザートの提供を行うことができた。「ふるさと給食の日」を楽しみに登校できた生徒がいたとの報告もあり、今後も児童・生徒に喜ばれるような献立などを考えたい。「ふるさと給食の日」に限らず、地場の農産物を提供できる事業として引き続き関係機関等と連携し、有機農産物も含め提供していただける地元農業生産者を増やしていきたい。

3 給食施設の維持及び設備更新（決算額 1,697千円） 事業番号 8 事務局1次評価 A

食品の安全性の確保するため、令和5年度から各給食センターの施設や設備の保守点検を行うとともに経年劣化による備品の更新、老朽化した設備の修繕や衛生管理向上のための設備更新を行った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
機械器具保守点検業務	千円 583 (583)	千円 583 (583)	千円 0 (0)	神岡給食センター厨房機器保守点検 583千円
給食施設の設備更新	561 (561)	556 (556)	5 (5)	河合給食センター三層シンク更新 556千円

（評価と課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額:1,351千円】

建設から10年を経過した神岡給食センターの厨房機器の保守点検業務を行い、設備の状況を把握しながら早期の修繕を行うことで長寿命化を図る。令和6年度は河合給食センター及び山之村調理場の保守点検を行い、施設の状況を確認しながら計画的な設備更新を行うとともに神岡給食センターの食器かごを3年間かけて順次更新する。

2 学校教育課

① 学務係・管理指導係

総括事項

飛騨市の学校教育の方針「志を語り合い しなやかに 挑み続ける 飛騨びと を育む」を具現するために、3つの重点（ア．主体的・対話的で深い学びの具現による資質・能力の育成、イ．一人一人が大切にされる学校づくりの推進、ウ．家庭・地域と学校の協働による特色ある教育の推進）を掲げ、校長の学校経営方針を基に取り組んだ。また、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を推進し、子どもたちに「自分なりの答えを導き出す力」や「多様な他者と協働する力」を育もうと社会総がかりで取り組んだ。

- 1 飛騨市学園構想の推進
- 2 ICTを効果的に活用した授業づくりの推進
- 3 生きにくさ、学びにくさのある児童生徒への支援の強化
- 4 地域部活動化による持続可能な部活動環境の整備

施策の概要

1 飛騨市学園構想の推進（決算額 3,792千円） 事業番号9 事務局1次評価 A

飛騨市学園ビジョンの【未来の創り手像】「志を語り合い しなやかに 挑み続ける 飛騨びと」を育むために、子どもたちの発達段階に応じた課題解決型カリキュラムの編成・実施と校種間交流の充実に取り組んだ。更に、学校運営協議会を実施したり地域学校協働活動を推進したりしながら、【創りたい地域像】「みんなで育て みんなが育つ 魅力あるまち」を地域全体で共有し、子どもたちの「やってみたい」を実現する探究学習を推進するために、新たに「飛騨市探究フェス」を企画・運営し、子どもも大人も面白がって探究し続ける学校や地域づくりを目指した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
飛騨市学園構想の推進	千円 4,534 (0)	千円 3,792 (0)	千円 742 (0)	・コアチーム会議10回開催、SNSを活用した啓発や説明、広報ひだ連載 ・神岡中文化部員の企画運営による神岡町防災タウンウォッチング(8/26) ・校種間連携の推進（中学生思いっきり探究学習in大正大学8/4・5） ・飛騨市探究フェスの開催（12/10）

（評価）

令和5年度は、第2章のキーワードである“面白がれる子どもと大人がこれからの地域と学校を創る”を大切にしながら、【創りたい地域像】「みんなで育て みんなが育つ 魅力あるまち」を具現するための13目標を踏まえ、これまでの実践をもとに活動内容の充実を目指した。そのため、コアチーム会議を定期開催し、4つの部会（カリキュラム・探究フェス・広報・地域学校協働活動）を軸として、関係者との情報共有や連携・協働により、着実な歩み

を進めた。特に、心から面白いと思える学びやチャレンジを地域内で共有し合い、学ぶ楽しさを広げようと「飛騨市探究フェス」を初めて企画し、12月10日(日)に開催した。当日は、「ココロ踊る。スキに会う。」を合言葉に、飛騨市図書館や市役所西庁舎を学びのフィールドとして、講師によるワークショップや講演、地域住民による講座、市内児童生徒による探究発表を行った。探究発表では、宮川小学校の児童による「葦(よし)ストローづくり」の発表があり、池ヶ原湿原を舞台にSDGsの視点も交えての探究学習の成果や地域の自然環境を生かした具体的な提案があった。古川中学校の生徒による「マイ・プロジェクト」の発表では、防災計画や誰もが過ごしやすい町づくり、絵本や歌声でつながる地域づくりについての多様な提案があった。また、神岡中学校の生徒による「飛騨市の薬草を使った化粧水」の発表では、地域で薬草に携わっている方とコラボし、化粧水開発の様子を動画にして紹介するなど、自分たちの興味・関心を地域の方との協働により薬草化粧水の開発につながったことがとても伝わってきた。さらに、吉城高等学校の生徒は、「飛騨市のご当地キャラづくり」の発表を行い、飛騨市の山や水、飛騨牛や起こし太鼓などをもとにしたイメージキャラクターを考案したことや、公式キャラクター決定後の活用のアイデアを提案した。また、飛騨神岡高等学校のロボット部の生徒は「自律型ホバークラフトの研究と製作」について、マサチューセッツ工科大学考案のトロイダルプロペラの構造を生かした製作過程での試行錯誤や国際大会での様子を発表した。その後、自律型ホバークラフトを実演し、参加者を魅了した。今回の「飛騨市探究フェス」に参加した中学生からは、「この高校に入って、自分もロボット製作などにチャレンジしたい!」との感想が寄せられた。こうした児童生徒の探究発表の様子から、多様な人々とのつながりにより思考力や判断力が磨かれてきていることや、プレゼン発表の中でのクイズや寸劇、歌、動画や実演などを交えるなど、確実に表現力が高まってきているといえる。

<受賞実績>

- ・岐阜県ふるさと教育表彰 最優秀賞(古川中学校) なお、古川中学校以外の小中学校はすべて優秀賞

<主な活動実績>

①課題解決型学習

- ・古川中学校 「マイ・プロジェクト」自分の興味・関心や得意・好き等を活かして、人から「ありがとう」と言われる活動の創造
鯉の引越し作業、古川祭会館4Kシアター活用、地域ミニコンサート(吹奏楽部・合唱部)、地域での作品展(美術部)など
- ・神岡中学校 「神岡FIELD学」地域と連携・協働し、飛騨市探Q(1年:よさや課題)、企業クエスト(2年:魅力や強み)、未来探Q授業(3年:自慢や誇り)
- ・宮川小学校 低学年「みやがわキッズアンバサダー」魅力発信、高学年「ふるさと大好き探検隊」池ヶ原湿原を中心に葦の活用
- ・飛騨吉城特別支援学校 高等部による飛騨市探究フェスでの販売(ポーチやランチョンマット・エプロンなどの手工芸品や陶器の器)

②コミュニティ・スクール&地域学校協働活動

- ・古川小の“古小サポーター”や古川西小の“見守り隊”の取組(登下校時の見守り、環境整備サポートなど)
- ・河合小学校地域学校協働活動「河合っ子マルシェ」の開催(ローズガーデン、薬草フェスティバル、飛騨市探究フェス)
- ・山之村地域学校協働活動の山之村まつり(山之村牧場で、特産品販売、山之村の魅力発信と移住促進PR、リーフレット作成配布など)

③校種間交流

- ・さくら保育園と古川西小学校の架け橋プログラムの実施〔ACP(アクション・チャイルド・プログラム)の協働実施〕
- ・宮川小学校と飛騨神岡高校による「ロボット講座」(飛騨神岡高校ロボット部員による児童へのロボット操作体験)や神岡小学校と飛騨神岡高校による

「俳句指導」（飛騨神岡高校文芸部による児童への俳句指導）

- ・古川小学校と吉城高校による「夏休み勉強ボランティア」（吉城高校の生徒が古川小の児童へ学習支援）
- ・大正大学（東京都豊島区巣鴨）へ出かけ中学生が浦崎教授や大学生と一緒に探究学習、2日目は横浜でのイベントに参加協力（中学生9名参加）

（課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：7,172千円】

令和6年度は、児童生徒が多様な人・物・事とつながり、自ら最適解を追究し学びを深めることを大切にしながら、予測困難な時代を生きる子どもたちに、地域が一丸となって正解のない課題に対して「自分なりの答えを導き出す力」や様々な課題の解決に向けて「多様な他者と協働する力」を育むための取組を引き続き推進する。

2 ICTを効果的に活用した授業づくりの推進（決算額 37,605千円）

事業番号10 事務局1次評価 A

国のGIGAスクール構想を受け、これまでに児童生徒一人1台タブレットPCを完備し、教師用デジタル教科書やロイロノート等の教材、電子黒板を小学校2年生～中学校3年生の普通教室及び理科室に整備のほか、ICT支援員による授業支援や研修会の開催などを通して、ICTを活用した授業づくりを推進してきた。令和5年度は、小学校1年生の普通教室や特別支援教室に電子黒板、小学校担任用タブレットPCの不足分を整備した。また、へき地校間の日常的な遠隔授業用環境整備やタブレット学習教材の導入により、ICTを効果的に活用した授業づくりを推進した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
ICTを効果的に活用した授業づくり	千円 38,270 (0)	千円 37,605 (0)	千円 665 (0)	◇児童用タブレットPC（84台） ◇教員用タブレットPC（小学校40台） ◇電子黒板（10台）、無線LANアクセスポイント（10台）、NAS（8台） ◇ICT支援員配置（3名）※内2名は短時間勤務

（評価）

国の「GIGAスクール構想」に基づき、令和5年度末までに、高速大容量ネットワーク、一人1台タブレット端末、教師用デジタル教科書及びロイロノート等の教材や電子黒板など、ICT環境を整備してきた。また、ICT支援員を配置し、ICT機器を授業や校外学習・行事等で積極的に活用するための支援を行うとともに、ICT機器の効果的な活用事例を学ぶ研修会を開催した。こうした実践の好事例を学校間で共有し、自校での実践に活かすことができるよう、各校のICT活用推進員の協力を得ながら、ICT活用事例集「ひだのICT3」を刊行した。

＜タブレットの主な活用事例＞

- ・小学校 国語「詩を味わおう」…ロイロノートの録音機能で録音し、音読発表会に向けた表現の仕方を工夫した。
- ・小学校 図工「木版画」…iPadのカメラ機能を用い、角度・ポーズ・表情などの視点から自分の表現したいことを考え、版画の構図を決めた。
- ・中学校 理科「光の世界」…タブレットの書画カメラを利用し、教師による演示実験をもとに生徒が実験結果を予想し、意見交流につなげた。
- ・中学校 特別活動「教育活動の情報発信」…ロイロノートやiMovieで教育活動紹介動画を作成し、保護者や地域向けにYouTubeで限定公開し発信した。

(課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額：110,500千円】

令和6年度は、整備から5カ年を経過したICT機器(タブレット、タブレット保管庫、校務用サーバー、校務用ノートパソコン、大型ディスプレイ、職員室メール管理パソコン、学校図書館蔵書管理パソコンなど)を対象に更新する。

3 生きにくさ、学びにくさのある児童生徒への支援の強化(決算額 13,836千円) 事業番号11 事務局1次評価 A

市内の小中学校には、日常生活への不安感や学習への困り感などを抱え、支援を必要としている児童生徒が相当数在籍しており、小・中学校入学による環境の変化から登校を渋る児童生徒が増えるなど、不登校・不適応につながってしまう状況が見られる。また、こうした児童生徒の多くが学力不振を抱えており、中学校卒業後の進路に大きな不安を抱えている者も多い。こうした状況を踏まえ、何らかの支援を必要としている児童生徒へ、各分野の専門家による相談や支援の体制を整え、できるだけ早い段階で個々の実態をつかみ、それに応じた適切な支援を行うことで、生きにくさや学びにくさの軽減を目指す。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
生きにくさ、学びにくさのある児童生徒への支援の強化	千円 14,252 (10,261)	千円 13,836 (9,024)	千円 416 (1,237)	・作業療法士等による学校巡回 ・学校心理士による児童生徒支援学校訪問 ・スタディサポーターによる学習支援 ・保小中連携の推進(保小をつなぐリーフレットの配布)

(評価)

全小中学校に作業療法士2名と言語聴覚士1名で構成する支援チームを、中規模の3つの小学校には毎月1回、その他の小中学校には年3～4回派遣し、生きにくさや学びにくさがある児童生徒への早期支援を行うとともに、学習や生活環境の整備や児童生徒への支援に対する助言を行った。専門家の見立てによる具体的な支援を行うことができるため、児童生徒はもちろんのこと教員や保護者にとっても大きな成果を得ている。例えば、各クラスに作業療法士が入り、全児童生徒を対象に、ソーシャルスキルトレーニングや自己認知の仕方を学ぶ時間を設けたことで、不適応の未然防止やどの子にとっても生きる力につながっている。また、学校心理士による児童生徒支援学校訪問では、経年的に児童生徒の生活や学習状況を見届けていることで、教職員の適切な早期支援につながり、児童生徒の困り感の軽減を図るだけでなく、教職員を対象とした特別支援教育に関する講話を実施し、支援の質の向上を図ることができた。

(課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額：32,729千円】

令和6年度は、障がいの有無に関わらず、何らかの支援を必要としている児童生徒に対して、早期に適切な支援を行うことができるよう、各分野の専門家による相談や支援の体制をさらに充実させ、生きにくさ、学びにくさの軽減を図る。

4 地域部活動化等による持続可能な部活動環境の整備（決算額 13,873千円） 事業番号12 事務局1次評価 B

令和4年度に実施した合同部活動のための移動車両の運行状況（平日と休日の各1日）や地域部活動推進協議会での協議内容、地域クラブ活動の実施団体となる可能性がある団体への聞き取り調査などを踏まえ、飛騨市が目指す地域クラブ活動は、単純に中学校部活動を地域部活動化するのではなく、子どもたちのやってみたいことが実現できる新たな社会教育環境の構築を目指す。多様で持続可能な地域クラブ活動（スポーツ系・文化系・まちづくり系）の環境について、地域部活動推進協議会や地域クラブ活動コア会議を核として検討を行った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
地域部活動化等による持続可能な部活動環境の整備	千円 15,710 (0)	千円 13,873 (0)	千円 1,837 (0)	<ul style="list-style-type: none"> ・合同部活動のための学校間移動車両の運行（平日2日） ・地域部活動推進協議会(3回)及び地域クラブ活動コア会議(19回)の開催 ・地域クラブ活動に関する地域説明会及びR6実証団体募集説明会の開催 ・部活動充実の支援（大会遠征等・吹奏楽部楽器購入）

（評価）

地域部活動推進協議会や地域クラブ活動コア会議、市民への「地域クラブ活動移行説明会」、実施主体となる団体への「地域クラブ活動実証事業団体募集説明会」等を通して、様々な意見を把握し、現時点でのビジョンを描くことができた。また、今後、地域クラブ活動の実施団体となる可能性がある8つの団体に対して、ヒアリング（①活動を支援する組織にはどのような機能が必要か、②現在、団体が抱えている課題は何か）を行った。その結果、①については、選手登録や会費の徴収等の事務機能全般、会員獲得支援といった機能、②については、団員の減少や指導者の不足といった課題があることを把握することができ、それをベースにコア会議で議論を重ね、ビジョンを作成することができた。一方、生徒移動車両については、5月から8月まで、平日の水曜日と金曜日、夏季休業日に2中学校間を試験的に運行した。

部活動充実の支援では、大会遠征等の補助として72件で約3,000,000円を支援するとともに、吹奏楽部の楽器（トランペット・ホルン・ドラムセット・シンバルセット・スーザフォン・ティンパニー椅子）を購入し、古川中学校と神岡中学校へ整備した。これまで、平日や休日の活動に参加するためには、移動費が全て保護者負担だったが、経費の半額を補助したことで、保護者負担軽減となり大変好評だった。

（課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：35,100千円】

児童生徒数の減少に伴い、部活動やスポーツ少年団に所属する部員や団員が減り、特に、団体競技は人数不足によって、学校単位での活動が成立しない事案が生じている。そこで、地域クラブ活動（スポーツ系・文化系・まちづくり系）を令和8年度までに本格始動するため、民間事業者と協働のうえ、地域クラブ活動実証事業に取り組み、課題の抽出と解消を行いながら仕組みを検討する。さらに、地域クラブ活動を主体的に運営する組織の将来的な設立に向けて、教育委員会事務局内に地域クラブ活動推進室（仮称）を設置し、推進体制を検討する。

3 生涯学習課

① 生涯学習係・教育振興係

社会教育法を基本とし、乳幼児から高齢者まで幅広い市民層に向けて、社会教育委員、各種推進員及び指導員と連携を図り、生涯学習の普及啓発に努めた。新型コロナウイルスの影響による施設の利用制限や外出控えに伴いコロナ前の地域コミュニティ活動が停滞しているため、令和5年度に限り市民の公民館使用料を無料化し、アフターコロナにおける地域コミュニティ活動の契機づくりを行った。また引き続き市民カレッジに取り組み、令和5年度は新たにジュニア学部を創設し子どもから大人まで全世代に向けて講座の提供を行った。

- 1 社会教育推進事業
- 2 青少年育成推進事業
- 3 家庭教育学級等開催事業
- 4 地域学校協働活動事業
- 5 公民館講座等開催事業
- 6 公民館管理運営事業

施策の概要

1 社会教育推進事業（決算額 1,004千円） 事業番号13 事務局1次評価 A

社会教育委員は、社会教育に関する計画の立案や調査研究を行い、社会教育に関して教育委員会に助言する役割を担うことから、県または飛騨圏域の研修等に参加していただき、委員の資質向上を図るとともに地域社会教育の推進リーダー役として活動した。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
社会教育推進事業	1,588 (1,588)	1,004 (1,004)	584 (584)	社会教育委員の会：2回 飛騨地区及び県社会教育委員連絡協議会等：5回

（評価）【令和6年度予算計上額：1,353千円】

社会教育委員と社会教育支援団体から構成されるネットワーク「生涯学習推進会議」は、4つの部会（子育て支援、青少年健全育成、文化芸術振興、生涯

スポーツ振興)で構成し、部会毎に今後の活動上での課題について意見交換の場を設け、活動の方向性を確認した。活動内容については生涯学習だよりにて回覧用チラシを発行し広く市民にPRした。

(課題及びその対応策)

コロナ前に戻ったことから集合型の会議・研修会の開催が多くなり、飛騨地区関係団体を含め情報交流ができたものの、遠方の開催でオンライン配信がない会議もあるため、集合型とオンラインの双方の利点を生かした関係団体と連携・協働を図りたい。

2 青少年育成推進事業（決算額 2,164千円） 事業番号14 事務局1次評価 A

4町から青少年育成推進員の推薦を求め、各町の地域特性を汲み取りながら青少年育成活動を展開した。青少年に関連する様々な課題に地域ぐるみで取り組むことにより、青少年を取り巻く環境の改善や地域住民の健全育成への気運を醸成した。また令和5年11月19日に岐阜県青少年健全育成県民大会を飛騨市にて開催し、青少年育成の基盤である「心豊かで明るい家庭づくり」について理解を深めるため、県内から220名の参加をいただき、飛騨市及び飛騨地区の青少年活動の事例発表を行った。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
二十歳のつどい開催事業	千円 1,301 (1,301)	千円 1,059 (1,059)	千円 242 (242)	令和6年1月3日開催(対象者255名) 飛騨市文化交流センター 出席者:169名 神岡町公民館 出席者:50名 計:219名
青少年健全育成推進事業	1,186 (1,186)	669 (669)	517 (517)	<ul style="list-style-type: none"> ・少年の主張大会の開催 中学生8名小学生7名(神岡町公民館6月10日) 飛騨地区選考会2名出場 ・青少年育成推進連絡協議会 古川部会:コロナ前と同様の活動に戻し、17地区でふれあい集会を実施し、スマホの付き合い方、地区の防災、家庭教育等幅広いテーマで開催し534名の参加をいただき、活動状況の啓発リーフレットを配布しPRに努めた。 河合・宮川部会:各種イベントにおいて青少年育成運動の啓発を図った。 神岡部会:登校する児童に向け、学校玄関前にて春と秋にあいさつ運動を実施した。
子ども会育成事業	529 (529)	436 (436)	93 (93)	子ども会充実と活性化のため、育成連絡協議会を通じ、各単位子ども会の団体運営及び個別の事業活動の経費の一部を補助した。 単位子ども会 50団体、1,197名

(評価)【令和6年度予算計上額:二十歳のつどい1,145千円、青少年健全育成1,282千円、子ども会育成650千円】

青少年健全育成活動の古川町地区ふれあい集会は、活動制限が解除されたことからほぼ全域での開催ができた。その中で、昨今は情報を得る機会は増えた

が、地区の中で誰に相談するか悩む事が増えてきているという話が出た。コロナ禍で地域活動が減少した中、ふれあい集会を通して世代を超えた顔が見える関係や気軽に話せる地域づくりの後押しとなるよう推進していきたい。

(課題及びその対応策)

子ども会活動は、会員数の減少に伴い保護者も減少し、地区役員のなり手不足が顕在化している。組織の活動については地域に住む子どもたちの集団活動の基礎であり、自主性や仲間との連帯感を育む貴重な場であるため、役員の負担軽減など様々なサポート案を提案するなど子ども会と共に継続して実施していく。

メディア掲載 6月11日 中日新聞 飛騨市で少年の主張大会 地元や家族テーマに飛騨市の小中生発表
 6月17日 岐阜新聞 古川中2名が地区選考会へ(少年の主張大会)
 11月22日 岐阜新聞 生きる力育む社会を 青少年健全育成 飛騨市で県民大会(岐阜県青少年健全育成県民大会開催)
 11月26日 中日新聞 非常時「自分のできることを」児童ら救命とドローン体験(神岡町子ども会育成事業)
 1月5日 岐阜新聞 飛騨市では近況伝え合う(二十歳のつどい開催)

3 家庭教育学級等開催事業(決算額 400千円) 事業番号15 事務局1次評価 A

家庭教育学級は保護者に対して家庭教育に関する学習機会を継続的に提供する事業であり、実施にあたっては各学校のPTAを主体とした。年間を通じ、今後の子育てに活かしてもらうことを目的として、集団で学ぶ学習形式にて親同士の交流を深めながら子育てについて学んだ。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
家庭教育学級(小中学校)開設事業	千円 442 (442)	千円 400 (400)	千円 42 (42)	家庭教育学級(小中学生と保護者対象:各小中学校PTA行事で実施) ・実施回数:59回 延べ参加者数:3,589名

(評価)

子育ての悩みを持った親同士が相互交流を通じて子どもの心身の発達上の課題などを学び、親の役割や家庭のあり方、小学校では生活習慣に関する事、中学校ではSNSに関する問題を再認識するなど親の自発的な学習を促すきっかけとなった。

(課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額:家庭教育学級事業 442千円】

家庭教育に関する課題は、学校規模や地域の環境によって相違があり、各々の課題解決に繋がる内容となるよう各小中学校のPTAに委託している。今後より効果的な事業となるよう学校やPTAと連携を深め事業の継続化に努めたい。

4 地域学校協働活動事業（決算額 661千円） 事業番号 1 6 事務局 1 次評価 A

幅広い地域住民の参画を得て地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な地域課題に取り組んだ。具体例として、小学校の運動会開催前に地域の方でグラウンドの草取りボランティアを募集し実施するなど、地域と学校が連携することにより共に課題解決することができた。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
地域学校協働活動事業	千円 1,469 (1,190)	千円 661 (585)	千円 808 (605)	地域学校協働活動推進員：24名 研修会：県主催4回、市主催1回 ・古川小：サポーターの会 ・古西小：サポータークラブ交流会実施 ・河合小：河合っ子マルシェ出店 森とバライベント・薬草シンポジウム ・宮川小：わくわく探検隊、神岡小：ひだっ子キャンプスクール ・山之村小中：児童生徒と語る会、山之村まつり

(評価)

市内の学校区に令和2年度に7つの地域学校協働活動本部を設置するとともに、学校長の推薦により各本部に3～5人の推進員を委嘱している。

令和4年度からは各校区での活動を中心に行っている。活動成果として、地域住民が一体となって取り組んだ事例発表を行い、関係者で情報共有するとともに、今後の活動に向け推進員としての資質向上を図った。

(課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額：1,475千円】

地域毎の課題が相違することから、各校区単位の支援策を構ずる必要がある。見守り隊など地域活動の重要性を認識してもらい多くの方の協力を得られるよう広報活動を実施する。また生涯学習課が推進員と学校を繋ぐことで各本部の事業がスムーズに展開できるようサポートを行う。

メディア掲載 8月22日 中日新聞 親子でニジマス釣り 自然楽しむ(宮川小 わくわく探検隊の実施)

5 公民館講座等開催事業（市民カレッジ）（決算額 10,388千円）

事業番号 1 7 事務局 1 次評価 B

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
公民館講座等開設事業 （市民カレッジ）	10,932 (0)	10,338 (0)	544 (0)	<p>【アカデミック講座】 市民カレッジ運営委員会 3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講座 戦場からのメッセージをあなたに（渡部陽一氏講演会300名） ・世界から見た飛騨の食材in神岡（飛騨市食の大使 工藤英良氏受講21名） ・「歩く人。」になろうin神岡（帝京大学医療技術学部教授佐藤真二氏28名） ・ニュートリノの今（東北大学科学研究センター准教授 古賀真之氏35名） ・世界一受けたい減災教室（岐阜大学教授 高木朗義氏22名）、 ・「アート思考」で日常をより豊かに（ベネッセアートサイト福武財団 藤原綾乃氏9名） ・野生動物との新たな暮らし（岐阜大学准教授 森部絢嗣氏18名） <p>【公民館講座】 50講座 受講者732名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも自主講座 50講座 356名 ・シニア学部 16講座 登録者257名 ・ジュニア学部 5講座 163名 ・シニア向けスマホ教室 88回 <p>【古川町寿大学】（郷土史、囲碁、ダンス、手芸 4 教室）登録者数66名 ※各教室毎月数回定期開催</p>

（評価）

市民カレッジ アカデミック講座は飛騨市に暮らしながらも大学教授による高度な講座が直接聴けるというコンセプトで令和3年度に本開講し、令和5年度で3年目を終了した。これまで、「宇宙」をテーマに最先端の研究について3年、飛騨の豊富な食材をテーマに2年連続と地元の魅力再発見の講座や自分の身を守る減災教室など、面白くてためになる多様な講座を開催した。今後とも引き続き幅広いテーマにて企画する。

公民館講座は、時代の趨勢により薄れつつある昔からの飛騨の風習や文化をテーマとし、ふるさと「飛騨」を再認識する内容の講座を実施した。今年は企業の協力を得て、ふだん立ち入ることのできない発電所施設の見学を大人向け、子ども向けと実施し地元にながら初めて見る人が多く好評であった。

令和4年度に新設したシニア学部では、地元町歩きガイドや飛騨神ロボット、薬草で健康作りをテーマに地元の協力を得ながら親しみやすい講座を企画した。

令和5年度に新設したジュニア学部では、イングリッシュデイキャンプで市内にて活動しているALT（外国語指導助手）のみなさんによる英語の絵本の読み聞かせ、歌、ゲームなどで一緒に楽しんだり、菌床しいたけ農家から親子で栽培方法を学ぶとともにシイタケ菌床ブロックを自宅に持ち帰り、育て、収穫するまでを学ぶなど地域の農業を学ぶことを企画し好評であった。

（課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：公民館講座運営事業 10,991千円】

講座については、幅広い年代の参加者が増えるよう、引き続きアンケートとその分析を行うことにより、受講者が魅力的で面白いと感じられる講座を企画立案することが求められる。

講座案内の冊子は、現行「アカデミック」「公民館講座」「ジュニア学部」と年齢層別に構成していたものを「歴史」「食・料理」「健康・運動」などジャンル別に構成を再編成し、興味ある分野を選択しやすくした。また、講座の申込期限を発行から1箇月としていたものを、開催日2週間前まで受け付けるように改善した（例：R5前期講座は申込期限がR5.3月末日としていた）。これらは、いずれも運営委員会の意見を反映させたもので、今後も引き続き改善していく。

6 公民館管理運営事業（決算額 49,067千円） 事業番号18 事務局1次評価 A

公立公民館は、地域住民の生涯学習を行う拠点施設となることから、適切な施設運営に努めるとともに、老朽化等による故障箇所の修繕を実施した。また、公民館講座等学びの機会の市民に広く提供することで、市民の生涯学習活動を支援した。

特に令和5年度は、コロナ禍でサークル活動をはじめとした地域活動が元に戻っておらず、利用者数が減少しているため、以前のような活発な地域活動の復活をめざす目的で令和5年度に限り、市民の利用に限定して無料化する試験実施を実施した。利用者アンケート結果からは無料化による一定程度の利用効果はあったものの、今後の活動増進効果がみられなかったことから、令和5年度限りで無料化を終了する。

公民館利用者数（R2：32,867人、R3：45,169人、R4：46,451人、R5：51,722人）

アンケート結果：今後の利用見込みは有料無料に関係なく現状維持の利用であり、無料化しても利用回数が増えない意見が75%を占める。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
公民館施設管理事業	千円 39,956 (39,956)	千円 34,843 (34,843)	千円 5,113 (5,113)	公民館4施設、分館3施設の運営・維持管理費 地域コミュニティ施設9施設（うち指定管理施設3施設）の維持管理費
公民館施設維持修繕事業	4,240 (4,240)	3,888 (3,888)	352 (352)	・古川町公民館排煙窓修繕工事 1,100千円
集落有集会施設整備事業	11,144 (11,144)	10,336 (10,336)	808 (808)	・集落有施設整備事業補助（13団体）10,336千円 LED化1、エアコン3、屋根改修4、備品購入1、駐車場整備3、解体1

（評価）

市有公民館の修繕はその都度対応した。

（課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：公民館施設管理50,922千円 維持修繕工事9,170千円 集落有集会施設補助7,733千円】

公立公民館の修繕はその都度対応し、大規模な修繕工事は施設毎の要修繕箇所の把握を行い順次工事を実施していく。また、公民館は有事の際に避難所の機能を果たすことから、その機能を果たすよう修繕を実施する。

4 文化振興課

① 文化係

総括事項

市民の価値観や生活スタイルの多様化により、物質的な豊かさよりも、感動や心のやすらぎを求める傾向となっている。その実現のために、文化芸術とのふれあいや文化活動への参加を積極的に促し、うるおいと生きがいを感じながら心豊かに生きる人づくりを推進し、貴重な歴史資源や文化資源との直接的な関わりを充実させ、ふるさとへの誇りや愛着心を育むとともに、地域の伝統文化の保存への支援を行った。また、優れた文化資源の効果的な活用を図り、飛騨市の魅力つながる新たな文化創造のまちづくりを推進するため、コロナ禍によって停滞していた文化活動を正常化し、各種講座や美術館等で企画展示の開催、文化活動の活性化や情報発信に努めた。

- 1 図書館機能の充実事業
- 2 飛騨市美術館企画展及び関連セミナー・ワークショップ事業
- 3 地域歴史資源活用事業
- 4 文化芸術振興事業
- 5 文化交流センター管理・運営事業

施策の概要

1 図書館機能の充実事業（決算額 22,316千円） | | | | |---------|----------|---| | 事業番号 19 | 事務局 1次評価 | A | |---------|----------|---|

市民の生涯学習の支援や多様化する知的好奇心に対応するため、古い蔵書を新しいものに更新し、魅力を感じられる図書館運営を推進した。

「おとなの時間」などの新型コロナウイルス感染症対策のため縮小していた企画やイベントを実施する事ができ、幅広い年代の方が参加された。

一方、河合町、宮川町、山之村地区の図書館遠隔地に対しては、前年に引き続き定期的に図書の出張貸出しサービスとして「飛ぶ図書館」を実施し、遠方にお住まいの方にも図書館の蔵書を利用してもらうことができた。また、託児サービス「ひるまり」を開始し、子育て世代の図書館利用の促進を行った。

館内展示では、「薬草プロジェクト」や「飛騨市 探求フェス」などの他課とだけでなく、観光協会等の外部団体ともコラボレーションした企画のコーナーを設け、書籍を通じて市の取り組みを知っていただく機会を創出した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
図書館運営事業	千円 22,278 (9,478)	千円 22,146 (9,436)	千円 132 (132)	利用者ニーズにマッチした選書や時代のトレンドの流れに沿った本の購入に努めるとともに古い蔵書を順次更新し、利用者にとって魅力のある本を提供する図書館を目指した。また、電子図書館のコンテンツを追加し、遠方居住者や図書館を利用されない方への利用促進を図った。 ・蔵書購入数:4,372冊、「飛ぶ図書館」利用冊数：延べ557冊 ・利用者数：飛騨市図書館 21,767名（過去5年の平均：24,778名） ：神岡図書館 9,970名（過去5年の平均：11,289名） ・電子図書コンテンツ購入数409冊（総コンテンツ数1,456冊） ・電子貸出実績：379件
来館促進イベント事業	229 (229)	170 (170)	59 (59)	例年通り定期おはなし会、講師を招いての「飛騨の歴史講座」などを開催した。また、ハロウィンイベントはワークショップをグリーティングに変更して開催した。コロナ禍で規模縮小していたイベントを再開し、新たにボードゲームのイベントや図書館をカフェのように使うイベントを行い、子供から年配の方まで幅広い年代の方楽しんでいただくことができた。 ・イベント実施回数は20回、参加者は延べ474名となった。

（評価と課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：18,364千円】

図書館司書は令和4年度までに正規職員を計3名増員した。新型コロナウイルス感染症対策のため中止していた職員全員での県外図書館研修を実施し、館内での日常業務以外でのスキルアップの場を持つことができた。

令和6年度はコロナ禍を経て変化した利用者のニーズに応えられるよう、施設利用のルールや方針を見直し、人と情報だけでなく人と人を繋げる空間を作っていきたい。また、各種データベースや電子図書館、令和5年度に開始した図書館利用中の託児サービスなど利用者に活用してもらえるよう周知・利用促進を図っていく。

メディア掲載実績：飛騨市図書館 ボードゲームイベント「図書館がボドゲをもちよって」 8月17日中日新聞

飛騨市図書館・神岡図書館 「本の福袋」 1月7日中日新聞

2 飛騨市美術館企画展及び関連セミナー・ワークショップ事業（決算額 3,726千円） 事業番号20 事務局1次評価 A

市美術館では、市民が芸術文化に興味・関心を持てるような企画展を開催するとともに、多様な文化芸術を創造するアートセンターを目指して、市民の文化芸術活動を支援するため、美術教室等の教育普及事業を実施した。

令和4年度に行ったりリニューアルにより温湿度管理が適切に行える等、より充実した展示・保存環境のもと、各種企画展や市展、飛越交流美術展等の展覧会が開催できた。一般の方からの展示室や多目的室の借用申請や問い合わせが増えてきており、美術館の用頻度は高まっている。

昨年度より始まったアウトリーチ事業の出張美術館は、実施希望があった古川小学校（3・4・5・6年生）、神岡小学校（3・5年生）、神岡中学校（1

年生）に対して開催。6日間で17学級に実施した。飛騨市美術館から、今年度開催した船坂芳助展のORIGAMIシリーズの木版画5点を持参。対話型鑑賞法のもと、授業一コマ分＝一学級で行った。美術館の側から出向くことで、学校側の負担を減らしつつ、子どもたちが間近に本物の芸術を鑑賞し、自分の見方、感じ方を深めていくことができる大きな機会となった。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
美術館運営事業	4,257 (4,202)	3,726 (3,113)	531 (1,089)	<p>【企画展】 「光芒を放つ 飛騨の画家たち」展 ～戦前・戦後の上原誠、徳永富士子、沖野清らの画業をたどる～ 会期：50日 入館者数：1,024名</p> <p>船坂芳助版画展 My Space and My Dimension ～ポップな色彩 反復する形 広がる色彩～ 会期：44日 入館者数：508人</p> <p>野見山暁治追悼展 会期：40日 入館者数：－</p> <p>第19回飛騨市美術展 会期：14日 入館者数：833名</p> <p>姉小路氏城館跡と飛騨の中世 会期：50日 入館者数：1222名</p> <p>常設展 ふしぎな絵 ふしぎな版画 会期：56日 入館者数：－</p> <p>美術教室発表展 会期：16日 入館者数：1151名</p> <p>飛騨市美術展、飛越交流美術展の運営</p> <p>【WS関連】 リニューアル関連イベント、企画展関連WS、岐阜県美術館・岐阜県現代陶芸美術館の出張WS、水彩画教室、日本画教室、彫刻教室、講演会、出張美術館（古小3日11学級252名、神小2日4学級74名、神中1日2学級46名、総数406人参加）など21事業。のべ参加人数1107名。</p> <p>市美術館運営委員会 2回開催 市美術館収集委員会 1回開催</p>

（評価と課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：5,250千円】

リニューアル記念展「光芒を放つ飛騨の画家たち」展では、戦前から戦後にかけて活躍した飛騨の画家たちの画業を展覧した。中央画壇や西欧の絵画運動との関わりからそれぞれの画業を価値づけ、市民に紹介することができた。特に、古川町にゆかりのある上原誠の、あまり知られていなかった戦中・戦後の画業を紹介できたことは成果と言える。また、関連催事として岐阜県美術館学芸員の廣江氏、美濃加茂市民ミュージアム館長の可児氏に講演をしていただき今後の飛騨市美術館の運営を見直す契機となった。

「船坂芳助版画展」では、船坂氏の近年の木版画であるorigamiシリーズの作品95点を、展示室の25mの壁面に、ダイナミックに構成、展示した。マット装のみのピン留めの掲示をしたり、また、二段による直線的な展示の流れに凹凸のアクセントや、色の並びの変化をつけたりするなどして、従来にはない新鮮な展示の効果を生み出すことができた。船坂氏の作品は、飛騨市へ寄贈されることとなった。

「姉小路氏城館跡と飛騨の中世」は山城の国史跡指定を見越して開催したものである。姉小路氏城跡に関する測量、文献調査、発掘、歴史地理等の着実な積み上げが、成果となって花開いた。実際に山城跡で出土した考古遺物の展示や、香川元太郎氏作の約30点の復元イラストの展示の他、武将に関連する県・

市指定重要文化財の展示も行った。今回の展覧会での貴重な展示品の借用は、数年来の飛騨市学芸員の活動が、文化財行政の関係者の信頼を得て、実現したものである。企画展関連催事として、香川氏を招いたトークイベント・ワークショップを開催したほか、学芸員の展示解説を計6回行った。また、本展開催にあたっては、プレスリリースを3回行ったほか、「SNSミュージアム」として担当学芸員が毎日、展示品解説のSNS発信を行った。企画展に関連した以上のような取り組みを通じて、山城跡の価値および飛騨市の歴史文化の発信や継続的なアーカイブ記録につながった。

今年度より、本格的に常設展示を開催したことや、收藏画家の逝去にともない、「野見山暁治追悼展」を開催したことなども、飛騨市民が文化芸術にふれる一つのきっかけになっている。

次年度は、リニューアルのコンセプトである「対話が生まれる美術館」に向けて、対話型鑑賞や出張美術館を充実させたり、企画展の展示方法や関連催事をより魅力的なものにしたりするなどして、飛騨市民が芸術とふれる機会をさらに増やしていく。

メディア掲載実績：3月23日	神岡ニュース	「飛騨の画家たち」展
4月10日	高山市民時報	「飛騨市美術館が改修し15日にオープン 地元画家にスポット当てた記念展開催」
4月12日	朝日新聞	「戦前・戦後飛騨の画家紹介 市美術館、15日リニューアル展」
4月15日	中日新聞	「きょう改装オープン 飛騨市美術館 地域アーティストへ」
4月20日	神岡ニュース	「飛騨市美術館リニューアル記念展覧会・コンサート 戦前・戦後の地元画家の作品展示」
4月27日	中日新聞	「飛騨市美術館で企画展」
6月3日	中日新聞	「友への真心 手紙にこめて 飛騨市美術館で地元画家6人展 海を越えた交流親族驚き」
7月2日	中日新聞	「折り紙の美 伝えたい 飛騨市美術館 船坂さん版画展」
7月10日	高山市民時報	「飛騨市出身の版画家 船坂芳助さんの作品展」
7月25日	岐阜新聞	「神岡出身の版画家船坂さん（東京） 創作の妙味150点展示 飛騨市 木版画作り教室で指導」
8月4日	朝日新聞	「木版画95点 こだわりの黒 飛騨出身・船坂さん作品展」
8月5日	中日新聞	「彫刻・立体造形やりませんか 飛騨出身・中垣さんが教室開講」
10月12日	神岡ニュース	「飛騨市美術館企画展 姉小路城館跡と飛騨の中世」
10月2日	高山市民時報	「飛騨市美術展」を開設…6部門 高山の牛丸さんが写真で市展賞」
10月19日	神岡ニュース	「飛騨市山城シンポジウム「姉小路氏城館跡」の実像に迫る10月29日飛騨市文化交流センターで」
12月9日	岐阜新聞	「古川小児、芸術楽しむ 飛騨市美術館の作品 校内で鑑賞会」
12月17日	中日新聞	「姉小路氏城館跡（飛騨市） 山城に残る歴史の息吹 宝物見つけた！」
2月8日	神岡ニュース	「飛騨市美術館 2月17日～25日 美術教室発表展」
2月21日	岐阜新聞	「彫刻や立体造形、独創的 飛騨市美術館で「美術教室展」幅広い世代の感性が共演」

3 地域歴史資源活用事業（決算額 18,271千円） 事業番号21 事務局1次評価 A

飛騨市内の所在する戦国武将・姉小路氏と江馬氏関連の城館跡に関する整備活用を推進した。令和6年2月に国史跡に指定された姉小路氏城跡については、山城ツアー・美術館企画展・山城シンポジウムと調査成果の普及事業を実施した。また江馬氏については専門委員会や奈良文化財研究所・福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館から指導助言を受け、調査研究や保存・活用・整備の客観性を担保した。事業の内容については、それぞれSNS等で常時発信し、県内外の興味がある方々に飛騨のダイナミックな山城の魅力と重要な歴史遺産としての価値を伝えた。

飛騨みやがわ考古民俗館は、参加者にも発信者にもなる在り方を求めて「石棒クラブ」による活動を行った。その延長として、これまでの3D合宿に加え、一日館長、無人開館の取組を行った。普及として、テレビ等の報道に取り上げられたほか、投資の学芸員が文化庁の埋蔵文化財部門・博物館部門の2部門の全国研修や、千葉県・群馬県で講師を務めるなど、全国の先進事例として注目を集めた。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
江馬氏城館跡整備活用事業	6,616 (139)	6,468 (0)	148 (139)	<p>今年度、傘松城跡が江馬氏城館跡へ国史跡の追加指定がなされた。上り口に標柱を設置し、地元のお寺に来訪者用の駐車場所として理解を得た。合わせて高原諏訪城跡・政元城跡のサインを整備し、現地への訪問体制を整えた。また、令和5年度に実施した神岡城展示リニューアルが完了し、4月1日にリニューアル開館した。江馬氏城館跡のガイダンスを行う場所として位置づけ、傘松城跡を含むこれまでの江馬氏城館跡の調査成果をパネルや動画で紹介した。地元を中心に多くの来館者があった（8702名）。</p> <p>国名勝・江馬氏館跡庭園については、保存のために整備委員会の指導を受けつつ、奈良文化財研究所の指導を受け、庭石の計測調査や3D計測を実施した。また江馬館の活用の発展のため、飛騨神岡街づくり実行委員会に利活用事業を継続して委託した。「神岡フレンチ」を学芸員の説明を受けながら食事する会などに加え、新たに堀の修復という保存関係のワークショップを開催した。実施成果に応じた課題や改善点を整理し、次年度以降の具体的な利活用の方向性を模索した。</p> <p>今年度の歴史講座は、広域連携と新たな学習分野の開拓として「飛越の戦国時代と江馬氏の城」をテーマに開催した。富山市学芸員を招待し、飛騨市学芸員とそれぞれ講演を行い、対談を行うことで「越中進出」という江馬氏に関する新たな歴史的視点が開拓された。本歴史講座には、市内外から多くの参加者があった（参加者：約140名）。</p>

姉小路氏関連城館群 (山城跡)整備活用事業	8,302 (889)	7,643 (0)	659 (889)	<p>姉小路氏関連の5つの山城が「姉小路氏城跡」として史跡指定を受けた。価値の発信と普及のためのイベントを開催した。山城ツアー60名、美術館企画展1,222名、シンポジウムに250名の参加があった。</p> <p>また、企画展においてはパンフレット・図録を作成、配布したほか、展示内容をSNSミュージアムとしてFacebook・Instagram・Xで各48回の発信を行い、企画展終了時点で計313,818件の閲覧があった。</p> <p>さらに、指定記念の懸垂幕を作成し庁舎に掲げた他、各山城の入り口には標柱を建て、登り口の明示を行い、現地への訪問体制を整えた。</p>
埋蔵文化財発掘調査等事業	3,151 (1,100)	2,583 (532)	568 (568)	<p>市内の山中で古墳の分布を調べる詳細分布調査を実施し、遺跡地図を作成し、公開した。また、令和7年度の報告書刊行を目指し、太江遺跡・寿楽寺廃寺跡において出土遺物の実測図作成、トレース作業を実施した。</p> <p>また、杉崎廃寺跡出土品の調査を進め、市有形文化財に指定した。さらに石棒など重要考古資料の整理作業を進めた。</p>
飛騨みやがわ考古民俗館 活用事業 (石棒クラブ)	1,186 (0)	812 (0)	374 (0)	<p>収蔵資料の3Dデータの取得と公開を、関係人口(石棒クラブ)と共働して、市オープンデータの取り扱いや調査研究成果のアウトリーチとの整合性を図りながら合宿形式で実施した。21名の参加があった。最終的な入館者は600名近くとなった。</p> <p>文化庁主催の専門研修で2回講師を務めるなど、全国へ取組みをPRした。</p>
旧中村家修復事業	194 (0)	0 (0)	194 (0)	<p>文化財保護審議会による現地視察及び、専門委員による個別指導により、まずは基礎部分を修復させる必要があることが判明した。来年度以降、実際に工事を行うよう反映させた。なお、個別指導を既存の会議と併せて開催することで予算の削減と原資となるふるさと納税の節約に努めた。</p>
古川祭史研究事業	820 (0)	765 (0)	55 (0)	<p>令和8年度の古川祭史(仮)刊行を目途に編集委員会を組織し、委員会を開催した。</p> <p>祭の全体像を把握するため、各台組から協力員を選出してもらい令和5年度の古川祭の写真撮影を行った。また、各台組から資料を預かって調査を行い、返却時には、台組毎に史料調査報告会を実施した。また、一般市民向けに講演会を実施した。</p>

(評価と課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額 61,608千円】

姉小路氏城跡では、山城ツアー・企画展・シンポジウムに多数の参加があり、山城が重要な歴史遺産であると認識され、郷土への誇りや愛着心の醸成に繋がることを確認した。また、各山城のサイン整備により、現地への訪問者が増えることを想定し環境を整えた。令和6年2月21日には、姉小路氏城跡の史跡指定と傘松城跡の江馬氏城館跡への追加指定がなされたことから、今後のさらなる保存活用に努めたい。

江馬氏館の活用については、庭園を眺めながらの食事会やお茶会を数回行い、価値の共有につながる取り組みが実施された。今年度、新たに史跡の保存に

市民等が参加する取り組みの第一歩として、堀修繕のワークショップを実施し、価値の共有と文化財の保存意識の高揚に繋がることを確認した。さらに藤橋能をはじめ、地域の納涼祭やオクトーバーフェスの会場としても活用されるなど、重要な地域資源としての認識が浸透していることを確認した。3月に実施した江馬氏城館跡の歴史講座には定員を大きく超える参加があり、価値の共有や市内外の関心が高まっていると再認識された。令和6年度も歴史講座や活用事業を継続的に実施し、地域に浸透する活用の方策を継続的に模索したい。

飛騨みやがわ考古民俗館での石棒クラブによる活用事業は、関係人口の増大に着目する市の政策に合致させている点が文化庁から評価され、埋蔵文化財部門による文化財マネジメント研修及び博物館部門のミュージアム研修で講師をつとめる機会を得て、飛騨みやがわ考古民俗館及び石棒クラブの取組みを広くPRできた。また、千葉県などでも講師を務めた。その取り組みの成果として、3D合宿参加者や入館者が増加となり、館の存続につながっていることである。さらに、11月には、情報システム担当と連携して一日館長・無人開館の実証実験を開始した。これは小規模ミュージアムの人材不足という全国的な課題に迫るものである。令和6年度も引き続き価値の共有と広がり意識した事業に取り組みたい。

古川祭史の研究事業では、基礎資料として各台組所蔵文書の収集や令和5年の古川祭の記録作業を行った。神社や各台組に等に現時点での調査成果報告会を実施し、地域住民から資料や情報の提供があるなど、市民の理解と協力を得ながら調査研究が進んでいる。その反面資料が膨大になり、整理と調査に時間がかかっているため、古川祭史発刊に向けて計画的に進めていきたい。

メディア掲載実績

4月6日 中日新聞、5月1日 岐阜新聞 「神岡城リニューアル」
5月11日・11月21日・1月16日 NHK、11月29日 中京テレビ、11月21日 中日新聞 飛騨みやがわ考古民俗館と石棒クラブ
10月21日 岐阜新聞、10月21日・10月22日・12月17日 中日新聞、10月21日 朝日新聞、10月21日 読売新聞、10月21日 毎日新聞
10月23日 高山市民時報、10月21日・10月26日 神岡ニュース、10月21日PRTIME 「姉小路氏城跡指定関係」
5月8日 岐阜新聞、7月25日・8月6日・9月5日・3月7日中日新聞、10月26日神岡ニュース 「江馬氏城館跡」
6月15日・9月27日 岐阜新聞 「古川祭保存会」
7月31日 中日新聞 「古川祭史」

4 文化芸術振興事業（決算額 18,046千円） 事業番号 2 2 事務局 1 次評価 A

飛騨市文化交流センターで行うイベント企画委託を補助事業化して市民が優れた芸術文化に触れる機会を創出するとともに、地域の伝統文化の継承の支援を行った。また、飛騨市出身で名誉市民である故荒垣秀雄氏「荒垣秀雄顕彰作文コンクール」は表彰式終了後に荒垣秀雄氏の生誕120周年記念シンポジウムを開催した。飛騨の歴史や民俗を伝え観光客にも楽しんでもらえる小さな博物館として令和3年度にオープンした「街なかポケットミュージアム」では、神岡町出身のちぎり絵作家である井上あき子氏の作品展示を行った。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
地域イベント開催助成事業	13,000 (13,000)	11,528 (11,528)	1,472 (1,472)	地域の賑わい創出と芸術文化活動の活性化を図ることを目的に「ひだ文化村」一体での様々な世代の方々が文化芸術に興味をもつ事業を行うため、NPO法人ひだ文化村が行う事業に対して助成を行った。 延べ来場者 8,658名
地域文化振興事業補助金 交付事業	1,400 (1,400)	797 (797)	603 (603)	市内の芸術文化活動の振興や地域に伝わる伝統文化の継承活動を支援するため、団体が行う事業に要する経費の一部について補助金を交付した。 ・飛騨市文化協会（飛騨市芸能祭等） ・飛騨市市民音楽祭実行委員会
地域伝統芸能継承事業助成金 交付事業	1,000 (1,000)	707 (707)	293 (293)	地域伝統芸能の保護や継承者育成を目的に成果発表を開催する団体に対して助成金を交付した。 河合町歌舞伎保存会は8月に公演を行い160名の参加があった。 藤橋会は9月に江馬館にて能の公演を実施し、約200名の参加があった。 公演を通じて多くの方に興味を持ってもらっている。
文化協会活動振興交付金 交付事業	2,565 (2,565)	2,429 (2,429)	136 (136)	飛騨市文化協会の活動を支援するために交付金を交付した。
荒垣秀雄氏の功績顕彰事業 (作文コンクールの開催)	408 (408)	321 (321)	87 (87)	朝日新聞でコラムで「天声人語」を17年間ににわたり執筆された故荒垣秀雄氏が残した功績を後世に伝える目的で「第6回荒垣秀雄顕彰作文コンクール」を開催した。今年度のテーマは、「挑戦」。応募数は211作品。表彰式は神岡町公民館で実施。第2部は荒垣秀雄氏の生誕120周年記念事業として市長と朝日新聞編集委員近藤康太郎氏による「地方で暮らす地方から発信する」と題したシンポジウムを開催した。入賞作品を市ホームページ等の公開を行った。

街なかポケットミュージアム 運 営 事 業	2,306 (0)	2,264 (0)	42 (0)	企画展「宮川・高原川伝統漁法の展示」を行い、また伝統漁法を学び魚料理を味わうイベントを開催し、魚食文化を伝えた。(来館者数：354名) 7月以降は、平成30年度に開催された飛騨市美術館企画展「ひだ行脚にゃんこ行脚展」をもとに井上あき子氏のちぎり絵作品の魅力を感じてもらった企画展を開催した。(来館者数：5,841名)
--------------------------	--------------	--------------	-----------	---

(評価と課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額 20,715千円】

飛騨市文化交流センターでは、コロナ禍の影響が落ち着き、大阪桐蔭高等学校吹奏楽部飛騨市公演、サマーフェスティバル、DRUM TAO和太鼓コンサート等を行い、市民が芸術文化を気軽に楽しんでもらえる機会の提供に努めた。また、クラシックギター奏者岡本拓也氏や名古屋音楽大学を招聘したアーティストインレジデンス事業を実施し、アーティストと住民の交流による地域の文化活動の促進や、飛騨市の文化的魅力を高めることによる観光促進等を図ることができた。

街なかポケットミュージアムでは、飛騨古川さくら物産館を訪れる観光客も入館され多くの来館者があった。5月まで開催した「宮川・高原川伝統漁法の展示」では、伝統漁法を学び魚料理を味わうイベントも開催し、多くの方に飛騨市の魚食文化を伝えることができた。7月以降は飛騨市神岡町出身の井上あき子氏のちぎり絵作品展を実施した。作品には古川祭や小雀獅子など地域の文化を題材とした作品と猫を題材とした作品を展示し、観光客をはじめ多くの方に満足いただけた。来館者の大半が観光客であるため、飛騨市の観光客増加につながる工夫を検討していきたい。

メディア掲載実績：8月16日 岐阜新聞、8月13日 中日新聞 「飛騨かわい地歌舞伎公演」

9月12日 岐阜新聞 「薪能藤橋」

7月16日・1月13日・2月17日・2月26日 朝日新聞、1月18日 岐阜新聞、2月28日 中日新聞 「荒垣作文コンクール」

5月18日 岐阜新聞 「街なかポケットミュージアム宮川・高原川の伝統漁法の展示」

7月5日 岐阜新聞、7月10日 NHK、7月2日 中日新聞 「飛騨とねこのちぎり絵世界」

5 文化交流センター管理・運営事業（決算額 62,331千円） 事業番号23 事務局1次評価 A

地域活性化と人的交流の促進及び市民の芸術文化意識の向上を目指し、指定管理者と綿密に連携し適切な施設の運営管理に努めた。

事 業 名	現計予算額	決 算 額	不 用 額	事 業 の 概 要
飛騨市文化交流センター 管 理 ・ 運 営 事 業	千円 65,349 (57,526)	千円 62,331 (54,272)	千円 3,018 (3,254)	飛騨市文化交流センターは、指定管理者が市内の文化交流の中心施設として運営し、貸館業務や魅力ある各種文化イベントを開催した。 主な設備の修繕として、スピリットガーデンホール及び小ホールの時計交換、井戸ポンプの修繕、竹植栽の撤去等を実施した。

(評価と課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額 77,100千円】

文化交流センターは、NPO法人ひだ文化村が公募を経て指定管理者として再度選定され、令和5年度より5カ年の指定管理が始まった。コロナ禍の影響が落ち着き、イベントは実施するとともに貸館利用サービスは継続し、市民が文化芸術活動を行う拠点としての運営を行った。

5 スポーツ振興課

① スポーツ振興係

総括事項

「生涯スポーツ活動の推進」を目標に掲げ、特に屋外における市民の健康づくり、生きがいづくり、まちづくりにつながる生涯スポーツを推進した。また、子ども達のスポーツ応援プロジェクトとして、令和4年度に新たに創設した交付金制度やスキー振興事業を継続して実施したほか、スケートボードエリアの整備や古川町におけるスポーツ学童事業を本格的にスタートさせるなどジュニアスポーツ活動の充実を図った。

スポーツ環境の整備では、公共施設予約管理システムに神岡町内の学校開放施設を追加し、利用者の利便性を向上させたほか、指定管理者への物価高騰対策支援と利用料減免補填を行った。また、限られた財源の中で、子どもから高齢者まで安心・安全に利用できる施設の整備に努めた。一方で、コロナ以降の急激な物価高騰の影響により、飛騨市スポーツ施設整備計画において最優先として取り組んできた飛騨市屋内運動場整備事業を一旦休止することとなった。

- 1 スポーツ推進事業
- 2 体育施設管理運営事業
- 3 飛騨市屋内運動場整備事業
- 4 公共施設予約管理システム導入事業
- 5 スキー振興事業
- 6 スケボー&BMXエリア設置事業
- 7 ねんりんピック岐阜2025大会開催事業

施策の概要

1 スポーツ推進事業（決算額 29,004千円）

事業番号 24	事務局 1次評価	A
---------	----------	---

スポーツの推進を図るため、飛騨市スポーツ推進委員を委嘱し、地域スポーツの活性化の中心となって活動してもらうことで全市的にスポーツを普及促進していく。また、各種スポーツ団体に対しても、指導者育成やスポーツ行事開催にかかる支援を行い、スポーツによる地域活性化を図るとともに、ふるさと納税を財源とした子どもたちのスポーツ応援事業を推進する。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
スポーツ推進委員活動事業	千円 2,168 (2,168)	千円 1,564 (1,564)	千円 604 (604)	○主な活動実績（スポーツ推進委員 総員19名） ・モルック教室（5月14日 参加22名） ・ふれ愛軽スポーツ大会（6月3日 参加90名） ・飛騨地区前期スポーツ推進委員研修会（6月24日 参加9名） ・山之村ノルディックウォーキング教室（6月26日 参加31名） ・ふれ愛スタンプウォーク（7月2日 参加167名） ・飛騨市スポーツ推進委員研修会（7月8日 参加10名） ・飛騨市民登山（9月3日 参加26名） ・種蔵ノルディックウォーキング教室（11月5日 参加22名） ・飛騨地区後期スポーツ推進委員研修会（11月11日 参加12名） ・岐阜県スポーツ推進委員研修大会（12月2日 参加9名）・東海四県スポーツ推進委員研究大会（2月9日 参加7名）
スポーツ団体育成事業	9,500 (9,500)	6,919 (6,919)	2,581 (2,581)	○補助団体 飛騨市スポーツ協会、飛騨市レクリエーション協会、飛騨市軟式野球連盟、飛騨かわい剣友会、かみおかクラブ
ジュニアスポーツ応援事業	6,350 (1,100)	4,869 (607)	1,481 (493)	○スポーツ活動充実交付金事業交付団体 ・飛騨市スポーツ少年団（21団体362名） ・中学校スポーツ部活動（13部活265名） ○スポーツ情報誌「スポーツひだ」発刊（7月、11月、3月（2回） 計4回）
スポーツ行事推進事業	10,168 (2,152)	9,728 (1,831)	440 (△291)	○実施事業 ・剣道錬成会及び飛騨かわい剣道アカデミー（6月10日 参加20名） ・第10回奥飛騨トレイルラン（6月25日 参加281名） ・F C岐阜子どもサッカー教室（7月8日 参加29名、10月21日 参加31名） ・F C岐阜ホームタウンデー（7月22日 参加27名） ・西濃運輸子ども野球教室（8月7日 参加69名） ・JABA高山市長旗・飛騨市長杯社会人野球大会（8月8日から4日間 参加8チーム） ・飛騨市スポレク祭（8月27日 文化村サマーフェスとの共同開催。参加多数） ・第1回ひだ流葉クロスカントリー2023（10月8日 参加160名） ・飛騨駅伝競走大会（11月12日 参加42チーム210名余り） ・飛騨市ふるかわ元旦マラソン（1月1日 参加約1,150名） ・第15回岐阜県民スポーツ大会スキー競技会（2月4日 市民参加16名） ・インクルーシブ・スポーツ学童（7月～3月 神岡18回参加299名、古川12回参加238名） ・オリンピック・トップアスリート交流事業（7/16水泳：参加55名、7/29バドミントン：参加110名、8/10ソフトボール：参加67名）

ウ オ ー キ ン グ 推 進 事 業	6,611 (0)	5,924 (0)	687 (0)	○実施事業 ・クアオルト定例ウォーキング（4月～2月 参加延べ466名） ・飛騨流葉トレッキング（5月27日 参加20名） ・第18回飛騨神岡ツーデーウォーク（9月2日～3日 参加230名） ・クアオルト健康ウォーキング実践指導者養成講習（9月9日～11日、10月21日～22日 受講者 2名） ・第5回飛騨市ノルディックウォーキングフェスタ2023（10月29日 参加43名） ・イチョウを巡るウォーキング（11月4日 参加20名） ・第15回北アルプス展望スノーシュー&テレマークスキーツアー（中止） ・クアオルト健康ウォーキング推進に関する連携協定締結式（3月11日）
--	--------------	--------------	------------	---

（評 価）

スポーツ推進委員活動事業については、令和4年度に組織改編を行い、2年目を迎えた。令和3年度より普及を進めている軽スポーツ「モルック」は、5月と10月にモルック教室を開催するなど、新たな軽スポーツの普及に努めた。また、飛騨市にて開催された後期飛騨地区研修会や東海四県スポーツ推進委員研究大会にも積極的に参加し、他団体との交流を深めた。

ジュニアスポーツ応援事業においては、飛騨市スポーツ活動充実交付金制度を継続し、多くの対象団体から交付申請があった。遠征費や備品購入など、交付の対象経費の自由度の高さもあり、各団体の活動支援と保護者の負担軽減を図ることができた。また、スポーツ情報誌「スポーツひだ」を4回発行し、子どもたちの活動や活躍を広く市民へ伝え、子どもたちの励みとスポーツに対する機運醸成を図った。

スポーツ行事推進事業では、第1回ひだ流葉クロスカントリーをはじめ、西濃運輸野球教室、飛騨市スポレク祭や飛騨市ふるかわ元旦マラソン、飛騨駅伝競走大会等、市民参加型のスポーツイベントの開催による賑わいの創出に努めたほか、インクルーシブ・スポーツ学童では、古川地区で本格的に事業を開始し、古川・神岡で計30回実施。保護者アンケートにおいて多くの好評の声をいただいた。

ウォーキング推進事業では、クアオルト健康ウォーキング事業において、久美愛厚生病院との連携協定を締結。また、実践指導者に2名の方が新たに認定されるなど、今後のガイドの充実、利用者増及び普及・促進につなげることが出来た。また、昨年度荒天により中止となったノルディックウォーキングフェスタを古川町の街中をコースとして開催したほか、数河流葉カントリーウォーク運営委員会が主催する支援事業もコロナ前と同様に開催され、多くの参加者で賑わうなど、ウォーキング事業全体の充実と推進を図った。

（課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：36,402千円】

新型コロナの2類から5類への移行を機に、事業やイベントの開催がコロナ前の水準に戻りつつあるが、一方でコロナを境に、人手・人材不足などの要因から「山之村だいこんマラソン」が開催できないなど、スポーツ事業をさらに推進、継続していくためには、こうした団体組織の充実や人材確保への取り組みへの支援を検討していく必要がある。

ウォーキング推進事業においては、令和元年度の飛騨市健康ウォーキングガイド協会設立後、参加人数も増加してきたが、令和5年度は昨年度と同様の参加者数にとどまった。医療機関との連携を契機として、まちづくりに繋がる新たな独自コースの追加認定調査、他市町村との交流や、より専門的な指導員資格養成講習も並行して進めながら、賑わいの創出と健康をキーワードとしたスポーツ・ウォーキングへの取り組みをより一層、市内外に広く浸透させていく。

飛騨市スポーツ活動充実交付金については、対象となる団体すべてが交付金申請を行えるよう更なる周知を行っていくほか、部活動の地域クラブ活動移行後の取扱いに関しても検討を進める。また、子どもたちが気軽にスポーツに親しめる機会を創出する取り組みとして、令和2年度より神岡地区で実施している「インクルーシブ・スポーツ学童」を古川地区においても令和5年度より本格実施を開始。利用者アンケートなども行いながら、市民ニーズに合ったさらなる事業の充実、推進を図っていく。

メディア掲載	4月12日	中日新聞	自然の中 無理なく歩こう クアオルト健康ウォーキング 飛騨の協会が冊子 活動やコース紹介
	5月10日	岐阜新聞	事業計画決めゲーム体験 飛騨市レク協会総会
	5月11日	中日新聞	スキー場へ感謝込め 団体児童ら清掃活動 飛騨・河合
	5月30日	中日新聞	新緑の中でヒメタケ探し 神岡・流葉山周辺 住民ら20人トレッキング 自然楽しみ地域振興に
	6月 3日	岐阜新聞	ひだ流葉トレッキング 新緑の山道散策 爽快、身近な自然を体感
	6月15日	岐阜新聞	剣道の心得と技、子どもに伝授 河合町ゆかりの高段者が指導会
	6月27日	中日新聞	涼やかブナ林 駆け抜けた 奥飛騨トレイルラン 県内外281人
	7月12日	岐阜新聞	10月 8日「ひだ流葉クロカン」ゲレンデ駆けよう 市教委など 初開催、参加者募る
	7月21日	中日新聞	総体レスリングに闘志 高山西高・田近さん「まずは1勝」
	8月 8日	岐阜新聞	西濃運輸が野球教室 投球や捕球、子どもに指導 飛騨市
	8月10日	毎日新聞	第37回JABA高山市長旗・飛騨市長杯争奪社会人野球高山大会
	9月 3日	中日新聞	流葉山の自然 踏みしめて 飛騨神岡ツーデーウォーク 開幕 150人が堪能 きょうも参加受け付け
	10月12日	中日新聞	風感じ 自然の中を疾走 神岡で「第1回ひだ流葉クロスカントリー」 県内外から参加「景色飽きない」「きつい！」
	11月11日	岐阜新聞	飛騨駅伝あす号砲 60回目 飛騨伝統のレース 6部門42チーム出場メンバー
	11月12日	岐阜新聞	伝統レース60回目 のぼりで盛り上げ 飛騨駅伝、きょう号砲
	11月14日	岐阜新聞	「思い一つ 晩秋駆ける 飛騨駅伝」「飛騨駅伝 前半粘り、4区で逆転」「飛騨駅伝、6部門で覇競う」
	12月 5日	中日新聞	飛騨出身2人 喜び報告 中京高軟式野球部全国V、市長に
	1月 5日	中日新聞	住民ら1150人走り初めふるかわ_元旦マラソン一斉スタート_4年ぶり復活
	1月 6日	岐阜新聞	1150人、新春の町を笑顔で疾走_飛騨市ふるかわ元旦マラソン
	3月12日	中日新聞	連携で市民の健康守る ウォーキング無理なく 飛騨市や久美愛厚生病院が協定

2 体育施設管理運営事業（決算額 159,779千円） 事業番号25 事務局1次評価 A

市民がいつでも快適にスポーツ活動に参加できるよう、体育施設を適正に管理運営し、必要なニーズに応じて改修等を行うことで安心安全な体育施設を維持管理していく。

事業名	現計予算額	決算額	決算未済額	事業の概要
体育施設管理事業	千円 71,999 (64,711)	千円 62,341 (56,565)	千円 繰越額 1,800 (1,800) 不用額 7,858 (6,346)	○管理施設 ・体育館等 18 施設（うち指定管理 5 施設）の維持管理 ・グラウンド 18 施設（うち指定管理 3 施設）の維持管理 ・スキー場 1 施設（うち指定管理 1 施設）の維持管理 ・学校開放施設 7 校（屋内運動場・グラウンド）の予約・収納管理 ○主な実施事業 ・（繰越）指定管理者物価高騰対策支援金 1,030千円 ・指定管理者物価高騰対策支援 2,330千円 ・指定管理料（減免補填） 148千円
社会体育施設の維持改修	99,308 (22,530)	97,438 (24,278)	1,870 (△1,748)	○主な実施事業 ・（繰越）かわいスキー場第4リフトサイリスタ更新工事 18,920千円 ・かわいスキー場圧雪車購入 49,500千円 ・黒内・角川屋内運動場トイレ改修工事 2,475千円 ・かわいスキー場第3リフト通信ケーブル更新工事 6,985千円 ・かわいスキー場圧雪車点検整備 2,200千円 ・古川町トレーニングセンターアリーナフロア修繕工事 1,463千円 ・稲越健康管理センタートイレ改修工事 4,862千円 ・元田体育館浄化槽等排水設備修繕工事 1,375千円 その他 9,658千円

（評価）

各施設の定期的な巡回及び、市民要望等による施設修繕を行ったほか、スポーツ施設のトイレ改修工事をはじめ、老朽化したかわいスキー場第3リフト通信ケーブルの更新工事等を実施。将来の大規模改修を予定している古川トレーニングセンターを除き、主要なスポーツ施設のトイレ洋式化は令和5年度で完了することができた。施設備品においては、かわいスキー場圧雪車の更新購入を始め、公共施設予約管理システムの対象施設に神岡町の学校開放施設を追加するなど、施設予約における利便性の向上と、利用者のニーズに対応したシステムの改修を行った。また、指定管理施設の減免団体利用に対し、利用料補填制度を新たに定め、減免団体利用の促進と指定管理者支援を行ったほか、令和5年度で指定期間満了を迎える指定管理施設について指定管理者2者を選定した。

令和5年度の所管スポーツ施設の延べ利用者（スキー場施設を除く）は149,711名となり、前年度比3.86%の増となった。

（課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：79,135千円】

多くの老朽化したスポーツ施設を限られた財源の中で維持、管理運営していく必要があり、市民ニーズに応じた優先度、重要度を常に勘案しながら計画的な修繕・改修を進める必要がある。特に、多額の整備費を要する施設改修等は、市全体の財政計画に照らしながら適切な時期、安価な施工方法、整備概算費

等を検討、明確にして計画する必要がある、現行のスポーツ施設整備計画の見直しが必須となっている。

指定管理施設においては、施設の修繕・改修、物価高騰の影響など、指定管理者との会議の場を設け、連携を密にして利用者のサービス低下にならない適正な維持管理を継続していく。また、指定管理者が変更になった施設においては、スムーズな引継ぎにより利用者に不便をかけることがないように運用体制を整える。

3 飛騨市屋内運動場整備事業（決算額 22,962千円） 事業番号 2 6 事務局 1 次評価 C

飛騨市スポーツ施設整備計画に基づき、市民等からの要望が多い屋内運動場の新設について改めて設計業務を委託し、関係団体等からなる飛騨市屋内運動場整備検討委員会にて、用途、施設規模、構造、付帯施設及び事業費等について、令和4年度に引き続き、委員からの助言及び提案をもとに整備の検討を進めたが、建設資材等の急激な物価高騰の影響により事業費が想定していた金額を大幅に上回り、止む無く事業を一旦休止することとなった。

事業名	現計予算額 千円	決算額 千円	不用額 千円	事業の概要
飛騨市屋内運動場整備事業	24,068 (68)	22,962 (45)	1,106 (23)	○委員会の開催状況 ・飛騨市屋内運動場整備検討委員会（委員8名） ・委員会2回開催（9月4日、12月4日） ○実施事業 ・屋内運動場新築工事設計業務 22,917千円 ・その他 45千円

（評価）

飛騨市屋内運動場整備検討委員会を2回開催。第1回委員会においては屋内運動場整備のコンセプトの再確認や、基本図面をもとに建物配置に関する意見聴取を行った。設計業務を進める中で、10月初旬に設計委託事業者から整備にかかる概算費用が7億5千万円余りとなる金額提示がなされ、限度額として定めた4億5千万円を大幅に超過する事業費となった。新型コロナウイルス感染症拡大や、ロシアによるウクライナ侵攻を契機とした建設資材等の急激な物価高騰が主な要因であり、市全体の財政計画や他の優先的、喫緊的な大型事業の実施時期等のバランスなどから、整備計画自体は維持しつつ、止む無く事業を一旦休止することとし、第2回委員会においてその旨を説明し了承をいただいた。

（課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：50,000千円】

止む無く整備事業を一旦休止することとなったが、飛騨市シニアクラブ連合会からの長年にわたる要望事項であり、当面の代替策を講じる必要がある。令和6年度において、同会から要望のある高齢者のスポーツ環境の整備を早期に進め、高齢者スポーツの推進と健康増進を図る。

メディア掲載 12月7日 中日新聞 屋内運動場整備計画休止_飛騨市議会一般質問_資材高騰で事業費膨らむ

4 公共施設予約管理システム導入事業（決算額 1,155千円） 事業番号27 事務局1次評価 A

利用希望が集中するスポーツ施設などを対象として、利用者間の平等性を確保することと、昨今の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、毎月開催される調整会議などの利用者が一堂に集まる機会の削減を目的とし、令和3年度公共施設予約管理システムの導入を行い、令和4年度4月より利用者の多いスポーツ施設7施設の運用を開始。令和5年度は新たに神岡町学校開放施設を同システムに追加した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
	千円	千円	千円	
公共施設予約管理 システム導入事業	1,155 (1,155)	1,155 (1,155)	0 (0)	○新規運用開始施設 ・神岡中（体育館・グラウンド）、神岡小（体育館・グラウンド） ○実施事業 ・公共施設予約管理システム改修委託 1,155千円

（評価）

インターネット申請の導入を求める利用者ニーズに応え、パソコンやスマートフォンから直接入力でき、予約重複時の自動抽選、帳票管理、多様な決済手段など、十分な機能を備えた予約管理システムを導入後、運用開始から2年が経過した。システムへの登録数（団体・個人）は190件余りとなり、同システムを利用しての予約管理が定着してきた。令和5年度は新たに予約システムに神岡町学校開放施設を追加することで、更なる利用者の利便性及び平等性の拡充を図った。

（課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：0千円】

新たに追加した対象施設のこれまでの予約方法とシステムでの予約が混在したことによりトラブルが発生する事案もあったことから、施設の鍵管理を行う指定管理者にシステム操作の指導を継続して行いながら、システム利用者の増加を推進していく必要がある。しかしながら、現在のシステム導入事業者は令和9年度以降、同システム事業から撤退する意向を示されているため、新たな予約システムの代替について模索する必要がある。

5 スキー振興事業（決算額 9,351千円） 事業番号28 事務局1次評価 A

市内の子どもたちが雪国ならではのスポーツであるスキーにより親しめるよう、令和2年度に新型コロナ需要喚起対策「Go to Skiキャンペーン事業」として市内小中学生のスキー場リフト無料化を実施。令和3年度は高校生も対象とするなど、事業拡大を図りながら令和5年度も事業を継続した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
	千円	千円	千円	
スキー振興事業	15,060 (60)	9,351 (58)	5,709 (2)	○実施事業 ・小学校スキー教室講師派遣委託料 1,078千円（延べ77名派遣） ・小中学校野外活動振興補助金 8,215千円 リフト無料化補助 8,025千円（延べ3,363名利用） スキーレッスン補助 190千円（延べ94名利用）

(評 価)

事業開始から4年目を迎え、事業として定着してきた。令和5年度は稀にみる暖冬となったことから、年末年始をはじめ、市内スキー場の開場期間が短縮されたことから、リフト無料化補助の延べ利用者数も大幅に減少(前年比27%減)することとなった。市内小中高生を対象としたアンケート調査においては、利用者が436名(調査対象数の59.4%)となるなど、子どもたちの本事業への利用ニーズは継続して高く、限られた開場期間のなかでも市内の子どもたちが雪国ならではのスポーツであるスキーにより親しんでもらえたほか、スキー場全体の集客にも繋がった。また、小学校スキー教室では、指定管理者との協議により、スキー用具レンタルの無料化を図った。

(課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額： 16,300千円】

令和4年度の実績から本事業に於ける利用者数はある程度の上限に達しており、今後は少子化の影響も出てくると推測されるが、アンケート調査を継続的に実施し、各スキー場の指定管理者へ情報共有するとともに、市民ニーズに沿ったサービスの提供や施設整備を引き続き検討していく。

6 スケボー&BMXエリア設置事業(決算額 4,276千円) 事業番号29 事務局1次評価 C

東京オリンピックでのスケートボード競技における日本人選手の活躍などから、市内においても子どもたちを中心にスケートボードエリアの設置を希望する声がアンケート調査において4割を超える結果であった。こうしたニーズに対応するため、市内候補地2箇所(古川1箇所、神岡1箇所)において実証実験を実施。古川町、神岡町の各1箇所を整備候補地としてエリア整備を計画した。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
スケボー&BMXエリア整備 事業	千円 5,000 (0)	千円 4,276 (0)	千円 724 (0)	○実施事業 ・夕陽ヶ丘駐車場舗装整備工事 3,924千円 ・エリア用フェンス購入 307千円 ・看板作成 45千円

(評 価)

令和4年度のアンケートをもとに、整備候補地である神岡地区(夕陽ヶ丘駐車場)の路面舗装整備工事とエリアフェンスを設置し、エリアとして開放した。古川地区(宮川河川敷)のエリアについては、隣接する河川の水深が高く、転落する危険があることや、緊急時にはヘリポートとして使用されることなどから、エリアとしての開放を保留することとした。

(課題及びその対応策)【令和6年度予算計上額： 0千円】

古川地区のエリア候補地については、子どもたちが安心して利用できる環境とは言い難く、今後も継続してエリア候補地を模索していく。また、神岡地区エリアについては、利用者アンケートの回答が1件のみであったため、さらなる周知と利用実態やニーズの把握に努めていく。

7 ねんりんピック岐阜2025大会開催事業（決算額 198千円） 事業番号30 事務局1次評価 A

令和7年度に岐阜県において開催される第37回全国健康福祉祭ぎふ大会「ねんりんピック岐阜2025」において、飛騨市はサッカー交流大会の開催地として決定された。令和7年度の本大会開催に向け、先行開催地の視察、関係競技団体等との協議、実行委員会立上げ準備などを進めた。

事業名	現計予算額	決算額	不用額	事業の概要
	千円	千円	千円	
ねんりんピック岐阜2025 大会開催事業	320 (170)	198 (100)	122 (70)	○実施事業 ・ねんりんピック2025担当者説明会（6月2日） ・サッカー競技実施要項検討会議（8月25日） ・ねんりんピック2023愛媛大会サッカー交流大会の視察 （10月28日～10月30日 松山市・西条市・新居浜市）

（評価）

ねんりんピック岐阜2025サッカー交流大会の開催地決定を受け、飛騨地区サッカー協会等関係団体と協議の上、競技会場や参加チーム数、競技形式などを定めた大会実施要綱（案）を作成。令和6年度にプレ大会を開催することを決定した。また、同大会の先行開催地視察においては、教育委員会事務局、市民福祉部の関係職員5名が愛媛大会を視察し、会場の設営状況や競技運営、おもてなし要素など、本大会開催に向けたイメージの共有、課題の整理に努めた。

（課題及びその対応策）【令和6年度予算計上額：3,500千円】

本大会では全国から60チーム、1200人程度の選手を市内4会場（7コート）に分けて競技の運営をするため、各会場に相当の数のスタッフが必要となる。大会実行委員会を早期に立ち上げ、市内の機運醸成を図るとともに、プレ大会の反省点などを踏まえながら、本大会に向け必要な準備を進める。

メディア掲載 10月26日 中日新聞 ねんりんピック出場 飛騨FC闘志燃やす 教育長ら激励